

島の薫りが満載

対馬を題材にしたオリジナルフレーム切手が対馬、志岐市内の37郵便局で3月5日から6月4日まで発売されています。

郵便局株式会社九州支社が「豊かな自然と悠久の歴史、国境の島対馬2009」と銘打ち、対馬だけに自生する「ハクウンキスゲ」や「ゲンカイツツジ」、国の天然記念物「ツシマヤママネコ」、野鳥の「マシヨウビン」など島を代表する動物植物10種類が切手になりました。(1シート)10枚(1200円)

このご当地記念切手は、千部発行され、島内では初めての取り組み。同支社では「この切手が、島のPRに少しでもつなげれば」と期待を寄せており、発売後の反響も好評のようです。

問い合わせ先・同支社営業本部

096 328 5282



小茂田地区に珍客が



3月3日、厳原町小茂田の民家近くの田んぼに北帰行のマナヅル約100羽が立ち寄りしました。

九州と朝鮮半島の間位置する対馬は、渡り鳥の絶好の休息地で、特に上県町佐護で休息する姿が3月末まで見られます。小茂田地区に沢山のマナヅルが飛来するのは始めてで、近くに住む齋藤信子さんは「2日の夜やかましい鳴き声で眠れなかった。朝、沢山のツルが、田んぼにいたのでびっくりしました」と話してくれました。

餌をついばんだり羽を広げ羽繕いをする優雅な姿は、訪れたカメラマンや住民の目を楽しませていました。

隠れた対馬の名所を巡る

こしま HOT SPOT

冬を思わせる景色

日に日に暖かくなってくるこれからの時期に冬を思わせる場所があります。まず1つ目は、先月号の冒頭でも紹介しました「鱒浦のヒトツバタゴ」です。

この鱒浦のヒトツバタゴは国内最大の自生地である国の天然記念物にも指定されています。

5月の中旬、ちょうどゴールデンウィークの頃、ヒトツバタゴの純白の花が鱒浦の集落を囲む山々を真っ白に染め、まるで雪山を見ているかのようです。

2つ目は、ヒトツバタゴの開花時



士富のゲンジボタルの乱舞 (柳田政則さん提供)

期から1ヶ月後に厳原町の土富地区で見えるゲンジボタルです。

乱舞も綺麗ですが、舞い疲れた無数の蛍が清流沿いに立ち並ぶ木々にとまって、淡い灯を点けたり消したりする様子は、まるでツリーに灯を点したクリスマス夜のようです。サントさんがソリに乗って降りてくるのでは、と空を見上げてしまいそうになるくらい幻想的で神秘的な美しさです。

幽玄なひとときをお過ごしいただけると思いますので、一度、家族や友人と一緒に足を運んでみてください。

対馬市役所観光物産推進本部

0920(53)6111

メールアドレス

asightseeing@city_tsushima.jp